

## 平成22年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立金沢泉丘高等学校(全日制課程)

学校長 浅田 秀雄

### 1 教育目標

真理を求め、勉学を第一義とすること  
情操を豊かにし、品位を高めること  
誠実にして、社会から信頼されること

正義を愛し、自らを清くすること  
自らとともに、他の人格を重んずること

### 2 中・長期的目標

#### (1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んできた。確かな学力を身につけさせるとともに、心身共に健全で品位と良識あふれる次世代を担うリーダーの育成をめざしている。
- ② 大学進学に関しては、県内有数の進学校としての実績を収めているが、全国を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。
- ③ 平成15年度に文部科学省の指定を受けたスーパーサイエンスハイスクールの研究開発が、平成18年度にさらに5年間延長されることとなった。生徒の興味・関心を高める指導法の研究をとおして、理数科だけでなく学校全体の活性化を図っている。
- ④ 学校評価の実施、土曜スクール開校、校内職員研修の充実等を行い、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。

#### (2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 確かな学力の育成  
進学実績の向上をめざし、質の高い教科指導と学習意欲に応える授業を組織的に展開する。
- ② 豊かな心の育成  
「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の環境整備を図り、「ふるさとを想ういしかわのリーダー」に必要な人格の陶冶をめざす。

#### (3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 組織の活性化と指導力の向上  
校務分掌において、副校長・教頭・主幹教諭・主任の位置付けを明確にし、学校運営の機能化を図る。教職員が互いに教育実践をとおして、計画的に指導力の向上を図る。
- ② 開かれた学校づくり  
本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

### 3 今年度の重点目標

創立120周年にむけ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。
  - ・ 1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。
- (2) 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。
  - ・ あいさつの励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。
- (3) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。
  - ・ 保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携した生徒活動の推進。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。  ・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。	① 校内研究授業や研究協議会などを通して、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。	教務課	校内研究授業は、前期と後期の特定の期間に行っており、国語・地歴公民・数学・理科・英語の5教科については年に2回実施している。 学習指導委員会が定例化し、授業改善に取り組む体制ができてきた。今年度は、教科としての取組の強化と研究協議会の充実が課題となっている。	<b>【満足度指標】</b> 生徒の授業に対する満足度が高まった。	「授業が充実しているか」について、4段階評価の平均値が、 A 3.40点以上 B 3.35点以上 C 3.30点以上 D 3.30点未満 ※ 4段階評価の基準 ・よくあてはまる …4点 ・ややあてはまる …3点 ・あまりあてはまらない …2点 ・全くあてはまらない …1点 ※ 昨年度は3.37点	C・Dの場合、授業改善に向けた取組みの再検討を行う。	生徒による授業評価を実施
	② 部・同好会の活動終了後、速やかに帰宅し、学習への切り替えができるよう、時間の有効活用について指導する。	生徒指導課	下校・帰宅時刻については改善が見られるものの、部活動等から学習への切り替えについては、スムーズに行われているか疑問である。	<b>【成果指標】</b> 部活動等から学習への切り替えができる生徒が多くなった。	「帰宅後、学習への切り替えがうまくできている」という生徒の割合が、 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C・Dの場合、顧問と担任等が連携して、指導を工夫する。	生徒によるアンケート調査を実施
	③ 授業等による基礎学力の定着を大前提とした上で、難関大入試分析や東大・京大・医学部説明会等の充実を図り、受験集団としての意識を高める。	進路指導課	2年生は、全体として順調に伸びてきている。上位層は3教科のバランスがよく、その他の生徒も、さらに伸びる可能性がある。 3年生は、難関10大学及び国公立大学医学科への進学志望者が230人を越えており、その内、東大志望者が30人程度いる。標準を越えるレベルの問題に対応できる力を持った上位層の育成が課題となっている。	<b>【成果指標】</b> 受験集団としての意識が高まり、東大・京大の合格者が増加した。	東大・京大の合格者の合計が、 A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満  ※ 昨年度は21人	C・Dの場合、授業や3年間を見通した進学指導について、再検討を行う。	次年度の当初に入試反省会・検討会を実施
	④ 外部講師による講演会や大学・研究所訪問により、生徒の科学に対する興味関心を高めるとともに、将来の進路選択にもつなげる。	S S H推進室	理数科において、学校独自の科目である「コスモサイエンス」、「人間科学」等で、外部講師を多数招聘している。 また、「つくばサイエンスツアー」や「マンチェスター大学研修」などを企画し、国内外の大学や研究所を積極的に訪問している。	<b>【成果指標】</b> 講演会や大学・研究所訪問が、将来の進路選択に役立った。	「講演会や大学・研究所訪問が、進路選択に役立った」という生徒の割合が、 A 75%以上 B 75%未満 C 55%未満 D 35%未満	C・Dの場合、S S H研究開発の事業の見直しを行う。	生徒によるアンケート調査を実施
	⑤ ホーム担任及び学年主任は、年間5回以上の個別面接指導を行い、生活面をはじめ、授業や家庭学習、校外模試に臨む姿勢など学習面について、個に応じた指導を行う。	1学年	中学から高校への勉強方法の切り替えがうまくいっていない生徒が見られる。 家庭学習時間の確保と、目的を持った学習意識を身につけさせたい。	<b>【満足度指標】</b> 個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上した。	「学年団の指導が、自分の学習姿勢や学力の向上に役立った」という生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、より効果的な個人面接指導のあり方について再検討を行う。	生徒によるアンケート調査を実施
		2学年	高い学力を有し、絶えず努力している生徒がいる一方で、苦手教科があり、その克服に苦勞している生徒や、学習習慣が十分身につけていない生徒もいる。				
⑥ 授業をより充実させるとともに、補習や個人添削等により、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を、時機を逸することなく行う。	3学年	1年次より、基礎基本の徹底を柱に指導してきた結果、標準レベルの問題に対応できる学力は定着した。 難関10大学や国公立大学医学科への進学希望者が、230人を越えており、全体に進路意識が高まってきている。	<b>【成果指標】</b> 個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現した。	難関10大学及び国公立大学医学科の合格者が、 A 100人以上 B 90人以上 C 80人以上 D 80人未満	C・Dの場合、授業や補習、個人添削等の方法について、再検討を行う。	次年度の当初に入試反省会・検討会を実施	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりを目指し、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。  ・あいさつの励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。	① 挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度を育成する。	生徒指導課	以前より改善されつつあるが、自らすすんで大きな声で挨拶する習慣ができていない生徒も少なくない。	【成果指標】 しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなった。	「自分はしっかりと挨拶をしている」と答えた生徒の割合が、 A 90以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、HRや学年集会を通して、再度指導を行う。	生徒によるアンケート調査を実施
	② 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。	生徒指導課	部活動への加入率は90.0%（運動部62.3%、文化部27.2%）である。 運動部については、昨年の県総体で総合7位（男子8位・女子14位）であった。 文化部においても、新聞部、放送部、将棋部等が、全国大会で活躍している。	【成果指標】 生徒主体の活発な部活動により、県総体の総合順位が上がった。	県総体の総合順位が、 A 3位以上 B 6位以上 C 9位以上 D 10位以下	Dの場合、次年度へ向け、指導方法を工夫する。	県高体連からの報告による。
	③ 環境美化の意識を高め、清掃活動への取組を充実させる。	保健環境課	昨年の学校評価では「しっかりと清掃に努めている」とする生徒が76%と肯定的な評価も高いが、保護者等からの指摘では、まだまだ不十分な点も多くみられる。 清掃用具の点検・整備が課題となっている。	【満足度指標】 清掃活動が充実し、学校の環境美化が進んでいる。	「清掃タイムを徹底することにより、環境美化への取組が進んだ」という生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合、ホーム担任と掃除監督者が連携して指導にあたる。	生徒によるアンケート調査を実施
	④ 魅力ある充実した図書館を目指し、蔵書管理の電算化を図るとともに、図書コーナーを充実させるなど、読書・学習環境の整備に努める。	図書課	ここ5年間は図書の貸出し数、入館者数は、ともにほぼ横ばい状態である。 電算化による蔵書の管理システムが整備され、今年度から蔵書のパソコン検索やバーコードによる貸出業務の効率化が可能になった。	【成果指標】 図書館の利便性が高まり、図書の貸出し数が増えている。	1年間（1月末現在）の本の貸出し数が、 A 4,500冊以上 B 4,500冊未満 C 4,000冊未満 D 3,500冊未満 ※ 昨年度は3,520冊	C・Dの場合、図書館便りや読書案内など、広報活動に一層努める。	月毎の貸出し数調査を実施
	⑤ 登校時、SH、授業など、あらゆる機会を捉えて、自己責任や規則遵守の意義を理解させるための指導を行う。	1 学年 2 学年 3 学年	社会生活を営む上での規範意識や、集団の中で自分を律する心の育成が課題となっている。 今年度は、特に遅刻の防止に取り組んでいく。	【成果指標】 規範意識の高まりにより、遅刻が減少した。	全校で1日あたりの平均遅刻者数が、 A 3.0人未満 B 4.0人未満 C 5.0人未満 D 5.0人以上	C・Dの場合、HRや学年集会を通して、再度指導を行う。	生徒によるアンケート調査を実施
	⑥ 遠足、スポーツ大会、創立記念祭等の学校行事を通して、クラスの団結力を高め、生徒の自主性・主体性を育てる。	1 学年 2 学年 3 学年	明るく素直な生徒が多く、各種学校行事を通して、「主体的に行動する力」が、学年を追うごとに少しずつ育ってきている。	【満足度指標】 学校行事を通して、自主性・主体性が身についた。	「創立記念祭等の学校行事に取り組むことで、自主性・主体性が身についた」という生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、自主性・主体性を育む学校行事について、再検討する。	生徒によるアンケート調査を実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。  ・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携した生徒活動の推進。	① PTA総会や「いしかわ教育ウィーク」等による学校公開を進めるとともに、生徒主体の「地域活動チャレンジ事業」を充実させることにより、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指す。	総務課	昨年度のPTA総会への参加者は611人、「いしかわ教育ウィーク」期間中の来校者は154人であり、一昨年度に比べて、いずれも増加している。保護者懇談会は、ほぼ100%の出席率である。 また、PTA活動については、昨年度から理事の立候補制を取り入れたこともあって、意欲的で自主的な組織運営が軌道に乗ってきた。	【成果指標】 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増えた。	PTA総会、「いしかわ教育ウィーク」における来校者数の合計が、 A 1,000人以上 B 750人以上 C 500人以上 D 500人未満	C・Dの場合、PTAと協力して広報活動に努める。	PTA総会(5/15) いしかわ教育ウィーク(11/1~6)
		教務課	昨年度に本校の授業を参観した保護者は1,519人であり、一昨年度の881人を大きく上回った。 また、保護者による学校評価の「教職員は指導力に優れ、信頼できる」に対し、肯定的な評価は94%であった。	【満足度指標】 積極的に授業を公開することによって、学校が保護者等から、より一層信頼されるようになった。	保護者による学校評価の「教職員は指導力に優れ、信頼できる」に対し、「よくあてはまる」及び「ややあてはまる」と答えた保護者の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	C・Dの場合、保護者の意見を参考にしながら、改善策を検討する	保護者による学校評価を12月に実施
	② ISO活動「節電・紙の節約」やリサイクル・ゴミの分別を通して、環境保全意識の向上を図る。	保健環境課	昨年度の学校評価では、ISO活動に対する肯定的な評価は77%であり、環境意識の高まりは、まだ十分とはいえない。	【満足度指標】 学校や地域での環境活動を通して、生徒の環境意識が高まった。	「ISO活動の実践や広報を通して、環境意識が高まった」という生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合、意識改革や広報の仕方について、改善策を検討する。	生徒によるアンケート調査を実施
	③ 生徒や保護者が気軽に来室して利用でき、安心して相談に臨める環境づくりを一層進める。	教育相談室	相談室の場所が、気軽に利用するには分かりにくく、リラックスして相談できる雰囲気にもやや欠けている。	【努力指標】 「相談室だより」により、生徒や保護者が親しみやすく、気楽に来室できるようになった。	「相談室だより」を発行した回数 が年間、 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回以下	C・Dの場合、学年団や関係各課と連携し、発行に務める。	6月・10月・12月・2月に相談室連絡会を実施
	④ 理数科1・2年生が、「中学生サイエンスフェア」及び「創立記念祭」において、小・中学生を対象にした理科教室を開講し、科学教育の面から地域に貢献する。	S S H推進室	昨年度、理数科1年生が、「創立記念祭」に来校した小・中学生に対して理科教室を開催し、参加者から好評を得た。	【満足度指標】 理科教室の運営を通して、生徒の地域貢献に対する意識が高まる。	「理科教室を開催して良かった」という生徒の割合が、 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C・Dの場合、次年度に向け、新たな取組を検討する。	参加者へのアンケート調査を実施
	⑤ ホームページの更新を定期的に行い、各種行事・部活動・S S Hの様子や教育課程・進路などの情報を、よりわかりやすく発信する。	情報管理室	各課室からの情報の提供によって、ホームページの更新をかなりの頻度で行い内容は充実してきているが、情報の鮮度という点ではまだ不十分であり、改善していく必要がある。	【満足度指標】 「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という保護者が増加した。	「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という項目の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、ホームページの内容の改善を検討する。	保護者によるアンケート調査を実施